

新学習指導要領の方向性と実現可能性

～高校教育と大学入試の果たす役割～

東京大学大学院教育学研究科 市川伸一

◆1 新学習指導要領の方向性

社会に開かれた教育課程

教科等横断的な資質・能力の育成

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）

カリキュラム・マネジメント

キーワードは新しいように見えるが、方向性が大きく変わったわけではない

大きな「転換」はむしろ2008年の中教審答申とその直後の学習指導要領改訂

「生きる力」「総合学習」「週五日制」を引き継ぎつつも、脱ゆとり色を鮮明に

中学校の選択科目を実質的に廃止

必修教科の時数と内容の復活

習得・活用・探究

教科横断的な言語力の育成（資質・能力の育成の先鞭）

今回の改訂は、前回改訂の延長にあるもので、けっして新しいものではない。

しかし、高校教育にとっては、「画期的」と言えるほど、「新しく見える」？

なぜか：

前回までの改訂方針は、高校にほとんど影響を与えなかったから

◆2 中教審・文科省（初等中等教育関係）から見た高校教育

日本の教育がめざしている方向に高校教育は動こうとしてこなかった

1998年改訂（ゆとりの集大成）はもとより、

「脱ゆとり」の2008年改訂も不発気味？（改訂年号は、小・中）

高校側の言い分？：大学入試が変わらないのに動けない

進学実績が低下すれば、受験生離れが生じる可能性

大学の言い分??：客観性・信頼性のある現行の入試方法を優先

偏差値の高さによるブランド、就職での有利性は、捨てがたい

推薦入試、AO入試などは、むしろ悩みの種？

大学により、分野により、動きはさまざま

ちなみに企業は？：依然として、学歴重視は根強い

こうした中で、今回の改訂と相前後して、「高大接続改革」

大学入試そのものを変えていくことにより、高校の変化を促したい

そもそも、本当に大学入試は変わるのか？

センター試験（新テスト）は多少変えられるが、各大学の二次試験は？？

◆3 議論を原点に戻す：学力の3要素

小・中・高・大で、どのような一貫した教育ポリシーをもつのか

「学力の3要素」はそれにあたるか

学力の3要素が出て来た背景

ゆとり教育、学力低下論争を経ての「しきり直し期」（2002～2008）

「生きる力」の一つとしての「確かな学力」（2003年答申）

- ・ 知識・技能
- ・ 問題発見、主体的な判断・行動、よりよく解決
- ・ 学習意欲

2008年改訂に向けての動き

改訂と並行して、教育基本法、学校教育法の改正（2016, 2017）

新学校教育法の中で学力の3要素にあたるものが明記

- ・ 基礎的な知識・技能
- ・ 思考力・判断力・表現力等
- ・ 主体的に学習に取り組む態度

なぜ、3要素か？（当時の議論から）

社会（大学を含む）における一般的な評価観点の取り入れ

- ・ 着実な知識・技能
- ・ 思考力、コミュニケーション力、創造性
- ・ 学習意欲、学習スキル、能動的参加態度

基礎学力（知識・技能）の回復をはかりつつも、過去の「知識偏重」「偏差値教育」

に戻すわけではないことの表明

当時の、高等教育を含んだコンセプト（人間力、社会人基礎力、学士力、キーコンピ

テンシーなど）とも方向性は合致

社会人として必要な資質能力の基本

「高大接続改革答申」(2014)での高校教育に求める学力の3要素もほぼ踏襲
これからの時代に、社会に出て生きていくのに必要な能力

- 基礎的な知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等の能力
- 主体的に・多様な人々と協働して学ぶ態度

新学習指導要領(小・中 2017)、高校(2018)でもこれらをほぼ踏襲

- 生きて働く「知識・技能」の習得
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力・人間性等

《ここからが本論》

◆4 日本の大学教育・高校教育はどう動くか

日本の大学教育の問題と今後の方向性

単位修得への動機づけから、社会人としての資質能力の向上

各教員が、3要素を意識した授業内容と成績評価へ

当然ながら、「主体的・対話的で深い学び」を目指すことになる

大学教育は、教員の裁量に委ねられているので、改革はしやすいはず

技術的な問題：FDの充実、就職先へのアピール

日本の高校教育の問題と今後の方向性

旧態依然の講義式授業と、活動偏重のAL風授業をどう止揚するか

「学力の3要素」、「習得・活用・探究」、「主体的・対話的で深い学び」から見て、

不満足な授業を改善する

一方では、「学びに向かう力」を中核に置いた教育(とりわけ、学習スキル)

他方では、探究学習、キャリア教育、市民性教育等の充実

→ 社会に開かれた教育課程

大学でも社会でも求められる資質・能力の育成に高校教育をマッチさせる

小・中学校教育の理念ともマッチするはず

◆5 大学入試の問題と今後の方向

理念が高校（以前の教育）と大学で仮に一致しても、大学入試がネックになる可能性
理念を重視して、客観性・信頼性のない入試をするよりは現行のほうがマシという声？

2つの選択肢

1) 入試は緩いものにし、入学後の単位修得を厳しくする。

（学歴は、「入学時」よりも「卒業時」のものに。）

→ アメリカ型？ → 大量入学、大量ドロップアウトを覚悟

2) 入試方法の改善

高校入試のように、調査書重視にはしにくい

→ 改革の方向性に沿って、出題する問題を改善

選抜資料の拡大による多面的評価（各種検定、活動実績等）

推薦書や面接ではなく、エビデンスに基づく能力評価

（Admission Office の充実）

高校側や受験生の納得感

こうした選抜方式のほうが、大学入学後の成績とも相関が高なら

就職活動、就職後の評価にも有利なら

→ 予測的妥当性

大学教員は、入試よりも、大学の授業改善・評価に多くの労力を！